

水曜コラム+

## 日銀いよ金融教室 第90回：「県内経済の総括判断は半歩前進」

2018年2月14日（水）（愛媛新聞 E 4 編集係）

日本銀行松山支店では、2月7日に、「愛媛県金融経済概況」を公表し、記者会見を行いました。毎月、県内の「第一次産業」、「第二次産業」、「第三次産業」の業種別の動向や、「雇用・所得面の動向」、「金融面の動向」について分析・公表しています。

（全文は[日本銀行松山支店のホームページ](#)をご参照ください）。

愛媛県金融経済概況では、冒頭に、「1. 概観」として、「県内経済の総括判断」および「個人消費」、「公共投資」、「住宅投資」、「企業の生産活動」それぞれの判断を記載しています。今回、県内経済の総括判断を、前月までの「緩やかに回復している」から「足取りをより確かなものとしつつ、緩やかな回復を続けている」に引き上げました。総括判断の変更は、2016年5月以来、1年9か月振りになります。とはいえ、「緩やかな回復」自体は変わりありませんので、一步というよりは半歩前進といったところでしょうか。

総括判断の引き上げの主な要因は、「個人消費」についての判断を、前月までの「持ち直している」から「持ち直しの動きが広がっている」に、昨年7月以来、7か月振りに引き上げたためです。これまで、「コンビニエンスストア」や「家電販売」は前年を上回っていましたが、これまで横ばい圏内で推移していた「大型小売店」（県内の百貨店、スーパー、ホームセンター等）の販売額が、11月と（一年間で販売額が最も大きい）12月の2か月連続で前年を上回るなど、持ち直しの動きに広がりが見られています。百貨店では、入店客に賑わいがみられるなか、生鮮食品やワインなどの食料品の販売が好調なほか、化粧品や腕時計などの雑貨も良く売れています。スーパーマーケットでも、青果など食料品の販売が好調です。

こうした背景には、天候要因もプラスに効いています。12月の松山市は、前年に比べ雨の日が4日少なかったほか、気温も前年より3度弱、平年より2度弱低く、ドラッグストアやホームセンターでも、様々な季節商材（カイロ、ハンドクリーム、リップクリーム等）や暖房機器等の売上が増加しています。

また、クリスマス商戦や初売りの売れ行きなどを踏まえ、小売り関係者からは「消費者のマインドが良くなっていると感じる」との声が増えてきています。

今後は、株価の動向が与える影響や、次回4月公表の短観（全国企業短期経済観測調査）で業況判断がどうなるか、春闘でベアがどうなるか、個人消費がさらに力強さを増すかなど、県内経済の動向を丹念に分析していきたいと考えています。

（日本銀行松山支店長・金沢敏郎氏）